

ふるさと教育 取組事例

学校名	海士町立海士小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3~6	総合的な学習 の時間	伝統芸能を学ぼう	○地域講師 (東区道中神楽・隠岐民謡)
ねらい		○地域に伝わる芸能に親しみ、その歴史や魅力を知ること、ふるさとへの理解と愛着を深める。 ○仲間と協力しながら練習や発表に取り組むことで、主体的に学ぶ姿勢を育み、集団の一員としての責任感や協調性を養う。	

1. 取り組みの概要

クラブ活動として20年以上前から、地域の伝統芸能である神楽(道中神楽)と隠岐民謡を地域講師から教わっていたが、一昨年度より、より探究的な学びを目指し、総合的な学習の時間での活動となった。11月に行われる海士町の産業文化祭と海士小学校学芸会をお披露目の場としている。

2. ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるためにどのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

各地区神社の大祭で伝統的に行われている道中神楽や、祭事等で必ず披露される隠岐民謡は、地域の活性に欠かせない伝承すべき文化のひとつである。その道中神楽・民謡を地域の方から教わることで、ふるさとへの愛着や貢献意欲を育むきっかけとしている。

(学力育成の視点から)

- 発表の場を2回設けることで、伝える場や相手に応じて、また個々の役割に応じてまわりと協力しながら表現することができている。
- 講師さんから教わるのみならず、本番に向けて、上学年が下学年に教え互いに協力し合うことでより良い発表にしようとする態度が養われた。
- 毎回、練習を振り返ることで、自らの成長や課題を意識して主体的に取り組む姿勢が身についた。

3. 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- 担い手育成が課題となっている神楽や民謡に自分たちが関わることで、観ている人が喜んでくれることに気づき、貢献意欲の向上につながった。
- 教えてくれる講師の方、観に来てくれる地域の方への感謝の気持ちが芽生えた。

(学力育成の視点から)

- どうしたらまわりと音や踊り・舞いが合わせられるのか等、講師とコミュニケーションを取りながら、自ら考え、解決に向かう力。
- 舞台でのそれぞれの役割を意識し、成功に向けて工夫する表現力。

4. 課題や今後の展望

クラブ活動から総合的な学習の時間へと移行したが、探究的な学びのサイクルを意識した活動としては不十分なため、次年度に向けて単元計画を見直している。また地域講師の高齢化による後継者不足も課題であるが、地域との連携を大切に、双方に負担のない形を見出し継続させていきたい。



* 取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)